

土砂災害を知ろう

いろいろな土砂災害

土砂災害は、大雨、長雨、融雪、地震などが引き金となり、山やがけなどの斜面が崩れ落ちる災害です。近年は増加傾向にあり、突然発生することから被害が大きいたことが特徴としてあげられます。

降雨量が1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上になったら十分な注意が必要です。

また、土砂災害が発生する前には、様々な前ぶれ現象が起こるときがあります。こうした前ぶれ現象に気づいたら、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防・警察へ通報してください。

がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。崩れ始めてから、崩れ落ちるまでの時間がごく短く、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことの多い災害です。



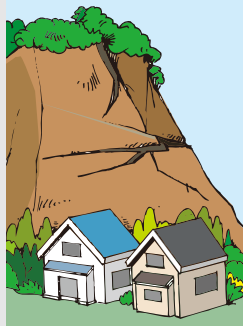
土石流

山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



！こんな前ぶれ現象に注意！

斜面にひび割れができる



小石がパラパラ落ちてくる



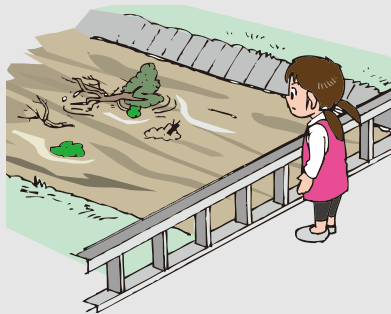
がけから水がわき出る



山鳴りがする



川の流れが濁り、流木が混ざり始める



雨が降り続けているのに、水位が下がる



雨に注意しよう

雨の強さと降り方

雨量や雨の強さを表す用語が、どの程度の雨の降り方を表しているのかを知っておきましょう。

1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
降り方のイメージ	ザーザーと降る雨	どしゃ降りの雨	バケツをひっくり返したような雨	滝のように降る雨	息苦しくなるような圧迫感がある雨
災害の発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	下水管から雨水があふれる。また、がけ崩れが起きやすい。	マンホールから水が噴出する。また、土石流が起こりやすい。	大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

気象庁が発表する情報

気象庁は災害が発生するおそれがあると予想したときは、警報や注意報を発表して災害に対する警戒や注意を呼びかけます。

